

令和元年度（2019年度）
第74回北海道教育研究所連盟研究発表大会（空知大会）
兼第61回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会



【たきかわ紙袋ランタンフェスティバル】

期 日 令和元年（2019年）8月29日（木）・30日（金）
会 場 ホテルスエヒロ
主 催 北海道教育研究所連盟
主 管 空知教育センター組合教育委員会
後 援 全国教育研究所連盟 北海道教育委員会 滝川市教育委員会

目 次

I	開催要項	1
II	運営次第	2
III	第16次共同研究経過報告	3
IV	記念講演	6
V	部会研究発表一覧	7
	テーマ A	8
	テーマ B	10
VI	大会役員一覧	12

I 開催要項

1 目的

北海道教育研究所連盟共同研究について研究協議を行うとともに、各加盟機関での教育研究、教員研修等の取組について、交流・協議することにより、北海道教育の一層の充実・発展、並びに所員及び研究員、教職員の資質向上に資する。

2 主催

北海道教育研究所連盟

3 主管

空知教育センター組合教育委員会

4 後援

全国教育研究所連盟 北海道教育委員会 滝川市教育委員会

5 期日

令和元年(2019年) 8月29日(木)、30日(金)

6 会場

ホテルスエヒロ

(〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16 電話：0125-22-1311)

2F：丹頂の間、白鶴の間

7 参加対象

北海道教育研究所連盟加盟機関の所員及び研究員、教育関係者等

8 日程

【第1日】8月29日(木)

13:00	13:30	14:00	14:45	16:00	17:00
受付	開会式	全体発表	記念講演	プログラミング教育等に係るブース体験	

【第2日】8月30日(金)

9:00 9:15		11:30		11:50	12:00
受付	研究発表・協議 テーマA		まとめ	閉会式	
	研究発表・協議 テーマB				

9 内容

(1) 全体発表

第16次共同研究(3年次)の研究内容

(2) 記念講演

演題 「教育研究所・センター所員の資質能力向上に向けて～新学習指導要領全面実施に向けたプログラミング教育やICTを活用した授業改善への支援～」

講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官 上野耕史氏

(3) プログラミング教育等に係るブース体験

(4) 研究発表(部会)

テーマA「プログラミング教育の全面実施に向けた取組」

・室蘭市教育研究所

「外部機関を活用したプログラミング教育の推進に向けた取組の具体」

・岩見沢市立教育研究所

「研究指定校と連動した『プログラミング教育』に関する研究の具体」

テーマB「ICTを活用した授業改善に関する取組」

・檜山教育研究所

「確かな学力を育む学習指導とICTの活用の在り方～ICTを効果的に活用した指導を目指して～」

・渡島教育研究所

「ICTを活用した授業改善の在り方に関する研究の具体」

(5) まとめ

Ⅱ 運営次第

【第1日 8月29日（木）】

1 開会式 13:30～13:50

(1) 開式の言葉

(2) 主催者挨拶 北海道教育研究所連盟委員長
(北海道立教育研究所長)

北 村 善 春

(3) 祝辞 全国教育研究所連盟委員長
(国立教育政策研究所長)
北海道教育庁空知教育局長

中 川 健 朗 様

竹 林 亨 様

(4) 来賓紹介

(5) 閉式の言葉

2 全体発表 14:00～14:30

第16次共同研究（3年次）の研究内容

令和元年度(2019年度) 共同研究推進委員会委員長 高 山 幸
(空知教育センター所員)

3 記念講演 14:45～15:45

演題 「教育研究所・センター所員の資質能力向上に向けて～新学習指導要領全面实施
に向けたプログラミング教育やICTを活用した授業改善への支援～」

講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官 上 野 耕 史 様

4 プログラミング教育等に係るブース体験 16:00～17:00

- ・ S k y 株式会社
- ・ 富士電機 I T ソリューション株式会社
- ・ 株式会社 エルモ社
- ・ 日本電気株式会社
- ・ 北海道立教育研究所

【第2日 8月30日（金）】

1 部会（研究発表・協議） 9:15～11:25

○ テーマA「プログラミング教育の全面实施に向けた取組」

会場：丹頂の間

- ・ 室蘭市教育研究所「外部機関を活用したプログラミング教育の推進に向けた取組の具体」
- ・ 岩見沢市立教育研究所「研究指定校と連動した『プログラミング教育』に関する研究の具体」

○ テーマB「ICTを活用した授業改善に関する取組」

会場：白鶴の間

- ・ 檜山教育研究所「確かな学力を育む学習指導とICTの活用の在り方～ICTを効果的に活用した指導を目指して～」
- ・ 渡島教育研究所「ICTを活用した授業改善の在り方に関する研究の具体」

2 まとめ 11:30～11:50

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官 上 野 耕 史 様

3 閉会式 11:50～

Ⅲ 第16次共同研究経過報告

1 研究主題

「これからの時代の教員に求められる資質・能力の向上に係る支援の在り方」

(平成29～令和元年度)

2 研究のねらい

各教育研究所・研修センターが学校支援のために活用する研修コンテンツ等を収集・提供するとともに、各教育研究所・研修センターが実施する北海道の地域性等に対応した教員研修の充実を図ることにより、これからの時代の教員に求められる資質・能力の向上に資する。

3 研究内容及び推進計画

	研究内容 1 コンテンツによる支援	研究内容 2 ICT の活用による支援 ～ビデオ通話ソフトウェアによる遠隔研修～
一年次 (平成二九年度)	○ 学校の実態に応じた研修コンテンツの作成 ・ミニ道研の資料等を基にした活用しやすい研修コンテンツの作成 ○ 校内研修に活用できる映像資料の作成 ・所員による映像資料の作成 ○ メンター研修等の実践事例の収集 ・若手教員の育成を目指した短時間で行う研修実践の事例の収集	○ ビデオ通話ソフトウェアの活用の試行 ・所員によるビデオ通話ソフトウェアの活用方法の検討
二年次 (平成三〇年度)	○ 研修コンテンツを活用した研修の実施、事例の収集 ・校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツの活用・改善 ○ 校内研修に活用できる映像資料等の収集 ・「道徳科の授業づくり」に関わる研修コンテンツのプレゼンテーション動画の作成 ・校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツに関わる板書画像等の収集 ○ メンター研修等の実践事例の改善、作成 ・「メンター研修」を中心とした若手教員の育成を目指す短時間で行う校内研修事例の改善、作成	○ ビデオ通話ソフトウェアを活用した研修の試行 ・ビデオ通話ソフトウェアを活用した実践事例の収集
三年次 (令和元年度)	○ 研修コンテンツの普及・還元 ・研修コンテンツの活用事例の収集、研修コンテンツの改善 ○ 校内研修に活用できる映像資料等の普及・還元 ・「道徳科の授業づくり」に係るプレゼンテーション動画の活用事例の収集、改善 ○ メンター研修コンテンツの普及・還元 ・メンター研修コンテンツの活用事例の収集、改善	○ ビデオ通話ソフトウェアを活用した研修事例の普及・還元 ・ビデオ通話ソフトウェアを活用した研修等の実践事例の収集
一・三年次 (共通)	○ 夏季所員研修会における所員の力量向上及び域内の学校におけるワークショップ型研修のファシリテーション(支援)の在り方 ○ Web上で提供する内容の共同研究推進委員会における情報共有 ○ 研究発表大会における研究発表及び協議	

4 共同研究３年次（令和元年度）の取組

(1) 研究内容１（コンテンツによる支援）

- 研修コンテンツの普及・還元に向けた取組
 - ・普及・還元に向けた具体的な取組について共同研究推進委員会で協議

<協議内容>

- ① 日常的な活用
 - 共同研究推進委員会（または道研連）のＷｅｂページの登録
 - ・学校の共有ＰＣのお気に入り登録、トップページにショートカットの作成等
 - ・教育研究所等のＷｅｂページにリンクの貼付
- ② 担当者による活用
 - 共同研究推進委員から各教育研究所・研修センター所員への還元
 - 各所員が自校で実施
 - 教育研究所・研修センター主催の研修講座等で宣伝
- ③ 興味を引く宣伝の工夫
 - チラシ、リーフレットの作成
 - 各コンテンツの見出し（フォルダ名）の工夫、内容が一目で分かるリード文の表記
 - 活用しやすいＷｅｂページの作成
 - 実践例の紹介

- ・研修コンテンツ宣伝用リーフレットの作成
- ・各研修コンテンツにおける見出し等の工夫・改善
- ・Ｗｅｂページの改善
- ・研修コンテンツの普及・還元の取組内容及び活用事例については、第16次共同研究３年次の成果として、Ｗｅｂ等で発信を予定

(2) 研究内容２（ＩＣＴの活用による支援）

- ビデオ通話ソフトウェアを活用した研修事例の普及・還元
 - ・道研連で購入したＷｉ－Ｆｉルーター等の活用を希望する教育研究所・研修センターに貸し出し、ビデオ通話ソフトウェアを活用した研修等を実施
 - ※今年度の申込状況：４件（８月現在）
 - ・ビデオ通話ソフトウェア（Ｓｋｙｐｅ）等を活用した研修の事例の普及や研修報告書について共同研究推進委員会で協議

<協議内容>

- ① 即実践可能なＳｋｙｐｅ活用法
 - 研修講座での活用
 - ・講師－受講者（遠隔研修）
 - ・本会場－別会場（研修講座を遠隔地に同時配信）
 - 各教育研究所・研修センター所員間の会議
 - 授業研究への活用（例 授業者と所員によるＳｋｙｐｅでの指導案検討など）
- ② 今後、考えられるＳｋｙｐｅ活用法
 - (1) 授業での活用
 - (2) 小・中連携、小・小連携
 - (3) 校内研修の共有

※「②今後、考えられるS k y p e活用法」については、教育研究所・研修センター主導で取り組むことは難しい（各校のニーズの把握及びより長期的なビジョンを持つ必要があるため）と考え、今年度は、「①即実践可能なS k y p e活用法」の3つを主な活用法として位置付け、実践事例を通じた研究を進めることとした。

- ・ビデオ通話ソフトウェア（S k y p e）等を活用した研修の事例を、第16次共同研究3年次の成果として、研修報告書に取りまとめ、W e b等で発信予定

(3) 夏季所員研修会の実施

- 教育研究所・研修センターの所員等のニーズを把握した上で、今日的な教育課題「プログラミング教育」、「カリキュラム・マネジメント」の推進に係る交流・演習の実施
- 独立行政法人教職員支援機構が作成した「『主体的・対話的で深い学び』を見取り、実現する校内研修」の研修動画を活用した講義・演習の実施
- 「第16次共同研究の内容と第17次共同研究に向けて」についての講義・演習を実施

(参加者アンケートから)

【研修後の気付き】

- ・新学習指導要領実施に向けて学校・センターで多くの不安を抱えていたが、研修を通して課題解決に向けた取組について理解を深めることができた。
- ・他の管内の所員との協議を通じて、多く情報を得ることができ、ネットワークの重要性を強く感じた。
- ・研究所・センターが果たすべき役割を再確認できた。

【第17次共同研究に向けた課題意識】

- ・業務の効率化や働き方改革を挙げている所員が多く、様々な意見があって参考になった。
- ・「所員としてできること」に焦点化して協議を行ったため、参考になるよい議論ができた。
- ・全道の困り感を共有できたことにより、改善に向けた取組が推進できることが大きい。
- ・「効率化」「情報の共有化」が課題解決の鍵になると感じた。

◇ 教職員研修機構の研修動画を活用した講義の動画視聴後の協議



◇ 第17次共同研究に向けた課題意識の交流



(4) W e b ページによる情報提供

- 道研連W e b ページに各研修コンテンツを掲載
 - ・「学校で活用しやすい研修コンテンツ」を目指した掲載方法の改善・更新
 - ・今後、これらの資料を活用した実践事例を収集し、研修コンテンツの改善を図るとともに随時道研連W e b ページ掲載内容の更新を図る予定
- 共同研究推進委員会（第2、3回）におけるW e b 会議の実施
 - ・研修コンテンツの普及・還元の方策についてW e b 会議の実施
 - ・今後、第17次共同研究に向けた協議を実施予定

Ⅳ 記念講演

「教育研究所・センター所員の資質能力向上に向けて～新学習指導要領全面実施に向けたプログラミング教育やＩＣＴを活用した授業改善への支援～」

講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官 上 野 耕 史 氏



V 部会研究発表一覧

1 日程（8月30日（金））

9:00 9:15 11:30 11:50 12:00

受付	研究発表・協議 テーマA	まとめ	閉会式
	研究発表・協議 テーマB		

2 テーマA 【会場：丹頂の間】

「プログラミング教育の全面実施に向けた取組」

時 間	発 表 内 容	発表機関・発表者	頁
9:25～9:45	○ 外部機関を活用したプログラミング教育の推進に向けた取組の具体	室蘭市教育研究所 ・椎 名 孝	8
9:45～10:05	○ 研究指定校と連動した「プログラミング教育」に関する研究の具体	岩見沢市立教育研究所 ・上 村 康 人 ・稲 場 亮 太	9
【司会者】北海道立教育研究所 研究研修主事 小 野 智 希			
10:30～11:30	協 議		

3 テーマB 【会場：白鶴の間】

「ICTを活用した授業改善に関する取組」

時 間	発 表 内 容	発表機関・発表者	頁
9:25～9:45	○ 確かな学力を育む学習指導とICTの活用の在り方～ICTを効果的に活用した指導を目指して～	檜山教育研究所 ・鈴 木 秀 樹	10
9:45～10:05	○ ICTを活用した授業改善の在り方に関する研究の具体	渡島教育研究所 ・鈴 木 悠 太	11
【司会者】北海道立教育研究所 研究研修主事 浅 部 航 太			
10:30～11:30	協 議		

4 まとめ

会場：丹頂の間

時 間	
11:30～11:50	まとめ 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 上 野 耕 史 氏

研 究 テ ー マ	
外部機関を活用したプログラミング教育の推進に向けた取組の具体	
研 究 の 内 容	
1 研究テーマの趣旨 新学習指導要領の全面実施にあたり、小学校において令和2年度よりプログラミング教育がスタートする。小学校学習指導要領総則によると、「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」を、「各教科等の特質に応じて、計画的に実施すること」とされている。また、中学校においてはこれまでも、主に技術・家庭科（技術領域）の指導内容にて、「簡単なプログラムが作成できること」と位置付けられていたが、令和3年度からは、「生活や社会における問題を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動」や「生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する活動」のように、問題解決の手段として意図的にプログラミングを行う学習活動が位置付けられる。 室蘭市教育研究所では、これらのプログラミング教育に対応するため、令和2年度からの学習指導要領全面実施に向け、平成29年度より、一般社団法人（現：特定非営利活動法人）「みんなのコード」の協力を得ながら市内教員向けの研修講座を段階的に開催してきた。 2 研究の概要 (1) プログラミング教育に係る研修講座実施状況 - 平成29年8月23日『プログラミング教育の推進に向けて』 会場：室蘭市立白鳥台小学校 講師：「みんなのコード」北海道支部 支部長 横澤 恵司 氏 主な内容：講話、模擬授業（アンプラグドによる学習、「Hour of Code」を用いた授業展開例） - 平成30年8月27日『プログラミング教育について』 会場：室蘭市立白蘭小学校 講師：「みんなのコード」指導者養成主任講師 竹谷 正明 氏 主な内容：6年生公開授業 算数科「正多角形×プログラミング」、講話 - 令和元年12月6日『プログラミング教育の実践（仮）』 開催予定 講師：室蘭市教育研究所 所員（ICT活用グループ所属の小・中学校教員） 主な内容：マイコンを活用したプログラミング教育の実践例、模擬授業体験 等	
成果と課題、今後に向けて	
〔成果〕 ○ 早い時期から段階的に外部機関を活用しながら研修講座を行ってきたことにより、研究所員をはじめ市内の教員にプログラミング教育の意義や実践方法について、正しい理解を広げることができた。 ○ 公開授業・プログラミング体験等を通じ、市内の教員に対して、プログラミング的思考や実践場面について具体的な指針を示すことができた。 〔課題〕 ● 市内の全ての小学校からの研修講座参加には至っておらず、プログラミング教育に対して不安を感じている教員も多い。さらなる情報発信に努める必要がある。 〔今後に向けて〕 ・所員を中心として先例となる授業実践を研究・蓄積し、リーフレットやホームページを活用して情報発信を行うとともに、研修講座についても実施時期や開催方法について参加しやすいものとなるよう、工夫していく。	

研 究 テ ー マ	
研究指定校と連動した「プログラミング教育」に関する研究の具体	
研 究 の 内 容	
1 研究テーマの趣旨 新学習指導要領で小学校において「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」が必修化された。令和2年度からの実施に向けて「プログラミング教育」の研究は岩見沢市においても喫緊の課題である。そこで岩見沢市立教育研究所は、「プログラミング教育」の円滑な実施を目的に今年度から研究指定校と連動して指導計画・授業づくり・教材教具・授業実践例等について研究を行っていくことにした。なお、研究を推進するに当たっては北海道立教育研究所とも連携して取組を進めている。 2 研究の概要 (1) 市内教職員へのアンケート ・プログラミング教育に係わるアンケートを実施し、市内の状況を把握し、研究計画の立案を行った。 (2) プログラミング教育についての理解 ・市内教職員を対象にした研修講座や研究指定校での校内研修において、外部講師によるプログラミング教育研修会を開催し、理解を深めることができた。 (3) 教材を活用するスキルの向上 ・外部講師によるスクラッチ・スクラッチ jr・授業教材の講習会を行い、スキルの向上に努めた。 (4) 授業づくり ・外部講師による研究指定校への出前授業を行い、プログラミングに係る授業への理解を深めた。 ・外部講師の支援を受けながら研究指定校における授業づくりを進めている。 ・部員による実践や研究指定校における検証授業・公開研究会を開催し、成果と課題をまとめる。 (5) カリキュラムづくり ・全体計画や年間計画（単元配列表）・指導計画例などを作成し、市内各学校に資料として提供する。	
成果と課題、今後に向けて	
〔成果〕 ○ 各学校の現状を把握することにより、プログラミング教育の円滑な実施に向けて研究内容を計画したり、課題解決のための情報を共有したりすることができた。 〔課題〕 ● 教員のプログラミング教育教材を活用するスキルの向上を図る必要がある。 〔今後に向けて〕 ・各校のカリキュラムづくりに向けて、参考例の作成を進めていく。 ・さらに、プログラミング教育研修会を実施するとともに授業実践を行い、令和2年度からの円滑な実施に向けて研究を進めていく。	

研 究 テ ー マ	
確かな学力を育む学習指導とICTの活用の在り方 ～ICTを効果的に活用した指導を目指して～	
研 究 の 内 容	
1 研究テーマの趣旨 小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から、新学習指導要領が全面実施されるにあたり、新しい時代に必要となる「子どもたちが身に付けるべき資質・能力」が明記された。確かな学力の育成には、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を目指した実践を積み重ねていくことが求められる。 そこで、檜山教育研究所では、教員の研修の場を設定するとともに、校内研修事例やICTを活用した学習活動の手立てを発信することで、管内の教員の学習指導のさらなる充実につなげることが重要な役割と考え、次の4点に重点をおいて活動している。①先進的实践校の教員を招いた研修講座、②遠隔研修によるミニ道研の実施、③檜山管内の校内研修事例の紹介、④ICTを活用した学習活動の事例の紹介 などである。今回は、テーマBに関わる実践事例を紹介していく。	
2 研究の概要 (1) 調査研究 ア 管内の優れた特色ある校内研修の紹介 イ ICTを活用した学習活動の事例の紹介 ウ 研究のまとめ（リーフレット）の発行 (2) ICTを活用した学習活動事例の紹介 ア 平成29年度 (ア) 「ICTを活用した校内研修」（奥尻町立奥尻中学校） (イ) 「ICTを活用した学習活動のための環境整備」（厚沢部町立厚沢部小学校） イ 平成30年度 (ア) 「中学校における遠隔授業等の効果検証事業」（奥尻町立奥尻中学校） (イ) 「厚沢部町内3小学校を結ぶ遠隔授業の試み」（厚沢部町立厚沢部小学校） (ウ) 「厚沢部町教育ソフト活用推進委員会研修会の取組」 ウ 令和元年度 (ア) 「ICTを活用した校内研修」（厚沢部町内小学校・中学校）	
成果と課題、今後に向けて	
〔成果〕 ○ 授業中の写真や動画を教職員で共有し、実際に起きている児童生徒の変容を見取ることができた。 ○ 「S k y p e を用いた遠隔授業の実践」から効果的な活用場面の一例を紹介できた。 〔課題〕 ● ICT活用における成果と課題の明確化と積極的な発信を行う必要があった。 〔今後に向けて〕 ・校内研修事例やICTを活用した学習活動事例などを引き続き情報提供していきたい。 ・ICT活用と『+α』の知恵で校務の負担軽減を図る実践事例なども情報提供できないか模索していく。	

研 究 テ ー マ
ICTを活用した授業改善の在り方に関する研究の具体
研 究 の 内 容
1 研究テーマの趣旨 ICTの進歩は目覚ましく、日常生活に広く浸透するとともに学校現場にも導入され、有効な活用やその効果が期待されている。学習指導要領総則では「情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」としている。 しかし、ICTの導入は市町によって差があり、各学校における活用実態は様々である。そこで、当研究所では、渡島のICTの導入や活用の状況について調査・分析して、どのような連携・協力ができるか研究を進めることとした。 また、すでにICTを導入した学校では、有効な活用方法を探りながら授業改善が行われ、その実践が蓄積されていると思われる。ビデオ通話アプリ（S k y p e）などのICTを利用して先進的な実践を広く紹介することで、それぞれの学校が実態に合わせて活用できる。当研究所はそれにより、ICTを活用した授業改善が渡島地域全体に広がることを期待できると考えた。 2 研究の概要 (1) 渡島管内各学校のICT環境の調査と連携の在り方 ア 各学校のタブレット導入および活用の状況 イ タブレットの授業活用実態 (2) 協力校によるICTを活用した授業の研究とその改善 ア 先進校の実践 イ タブレットを活用した授業の検証 (3) インターネット環境を利用したネットワークづくり ア 教員が利用しやすいネットワークづくり イ タブレットを活用した授業の検証 (4) ICTを活用した授業づくり ア ねらいを達成するためのICT機器の活用の在り方 イ 各学校のICT機器の導入状況に合わせた活用の在り方
成果と課題、今後に向けて
〔成果〕 ○ ICT（タブレット）機器の導入状況調査を行ったことにより、管内のタブレットの導入・利用状況や今後に向けた課題について把握することができた。 ○ 先進校の実践についてS k y p eで3会場を繋ぎ研修を行ったことにより、学校現場での今後の遠隔交流に大きな可能性を示すことができた。 〔課題〕 ● インターネット環境を利用したネットワークづくりは、ネットワークを整備する段階にとどまっております。今後より活用しやすいシステムを構築していく必要がある。 〔今後に向けて〕 ・ネットワークがより活用しやすいように利用者の意見を参考に改善を行う。 ・より多くの資料を収集できるようにこのネットワークを周知する取組を充実させる。



VI 大会役員一覧

大会長	北村善春	北海道教育研究所連盟委員長（北海道立教育研究所長）
副大会長	相沢克明	北海道教育研究所連盟副委員長（札幌市教育センター所長）
	佐藤保	北海道教育研究所連盟副委員長（上川教育研修センター所長）

【北海道教育研究所連盟事務局】

事務局長	坪川泰嗣	（北海道立教育研究所研究・相談部長）
事務局次長	前川洋	（北海道立教育研究所研究・相談部研究主幹）
	鶴田純子	（北海道立教育研究所総務部事業課長）
事務局員	米田恵美	（北海道立教育研究所総務部事業課主査）
	大井結厘子	（北海道立教育研究所研究・相談部主査）
	山寺潤	（北海道立教育研究所企画・研修部主任研究研修主事）
	鈴木肇	（北海道立教育研究所研究・相談部研究研修主事）
	森田雅彦	（北海道立教育研究所企画・研修部研究研修主事）
	小野智希	（北海道立教育研究所研究・相談部研究研修主事）
	楠本学	（北海道立教育研究所研究・相談部研究研修主事）
	浅部航太	（北海道立教育研究所研究・相談部研究研修主事）
	高木志磨人	（北海道立教育研究所企画・研修部研究研修主事）

【運営委員会】

委員長	岩田稔	（空知教育センター所長）
副委員長	小西和真	（空知教育センター主任所員）
事務局長	吉川修	（空知教育センター主幹）
委員	高山幸	飯澤静 渡部由佳
	黒澤恭太	宮町舞子（空知教育センター所員）

【令和元年度(2019年度) 共同研究推進委員会】

委員長	高山幸	（空知教育センター所員）
副委員長	小野智希	（北海道立教育研究所研究・相談部研究研修主事）
委員	只野博海	（石狩教育研修センター指導員）
	鈴木悠太	（渡島教育研究所員）
	舟山尚	（釧路教育研究所員）
	松尾広樹	（網走地方教育研修センター研究員）
	小林豊	（上川教育研修センター研究員）
	山際信博	（留萌管内教育研究所研究員）
	阿久津誠	（札幌市教育センター指導主事）
	椎名孝	（室蘭市教育研究所主任所員）
	芳賀均	（北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター員）
	浅部航太	（北海道立教育研究所研究・相談部研究研修主事）